

て 明治を輝らした光

—燈台巡廻船明治丸の活躍—

2013年 7月2日(火) — 7月31日(水)



- 【時 間】午前 10 時—午後 4 時
- 【休館日】月曜/土曜/日曜休館 ※7月6日/15日/20日は開館
- 【入館料】無料
- 【会 場】東京海洋大学越中島キャンパス 百周年記念資料館
- 【主 催】東京海洋大学明治丸海事ミュージアム・東京海洋大学附属図書館
- 【問合せ】TEL : 03-5245-7360 (明治丸海事ミュージアム)
- 【E-mail】meijimaru@o.kaiyodai.ac.jp

東京海洋大学明治丸海事ミュージアム

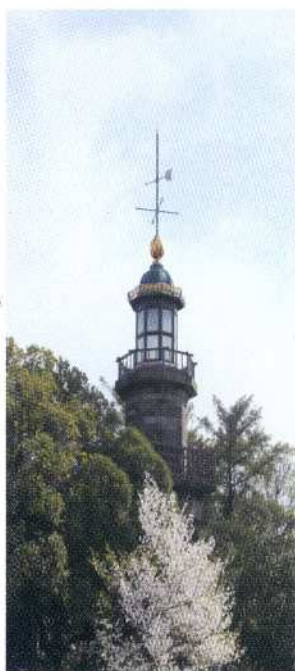


總州銚子港燈臺畧圖 歌川國輝(二代)画

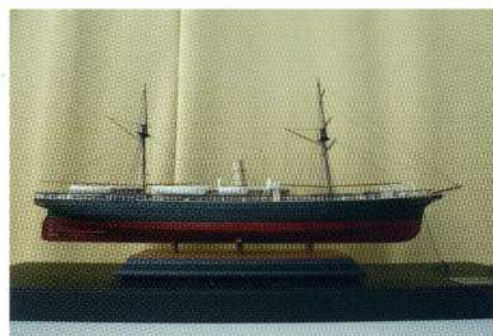
明治丸が明治の初め燈台整備業務や物資の補給のため巡廻した燈台について、錦絵、当時の写真、現在の写真、そして巡廻記録等の関連資料などにより明治丸の活躍を紹介します。



日本名勝図会 観音崎 小林清親画



九段の燈明台（東京都）



明治丸



六連島燈台（山口県）霞会館蔵



水路報道（第9号）国立公文書館蔵

交通アクセス 《公共交通機関を利用して来館ください》

J R京葉線・武蔵野線「越中島駅」(各駅停車のみ)下車徒歩2分
東京メトロ東西線・都営地下鉄大江戸線「門前仲町駅」徒歩10分
東京メトロ有楽町線・都営地下鉄大江戸線「月島駅」徒歩10分



て 明治を輝らした光

—燈台巡廻船明治丸の活躍—

目 録

2013年 7月2日(火) — 7月31日(水)

東京海洋大学明治丸海事ミュージアム

ごあいさつ

このたび東京海洋大学明治丸海事ミュージアムは企画展「明治を輝らした光」を開催いたします。

本学に保存されている明治丸は、誕生から現在に至るまで、数多くの仕事を成し遂げしてきました。取分け、明治天皇が明治 9 年に奥羽・北海道御巡幸に際し、青森から函館へと乗船され、さらに、函館から横浜まで座乗されましたことは、明治丸の活躍の中で、特筆すべきことであります。さらに、小笠原の領有にも、明治丸が多大の貢献をしました。以上のような、輝かしい功績に注目するのは、自然なことではありますが、しかし、一方で、明治丸の本来の任務は燈台巡廻船でありました。

江戸時代の末期に開国をした日本は、長い間の鎖国の為に西洋式燈台が皆無であり、諸外国から、暗い海（dark sea）と呼ばれて恐れられていました。したがって、西洋式燈台を建設することが、明治新政府にとって急務でありました。そのために、燈台位置の測量、資材の運搬等の業務に使用する燈台巡廻船が必要となり、政府は外国から中古船を購入して、その任務に当たらせました。しかし、中古船では、修繕費が高くなり、かつ、燈台の数も多くなるにつれて、新しい船を英国に注文し建造することとしました。その船こそが明治丸でした。

2 年前の本ミュージアムの企画展「明治丸の航跡を求めて」においては、ロイヤルシップとしての明治丸の活躍等にスポットをあてましたが、今回の企画展においては、明治丸の本来の業務の燈台巡廻船としての明治丸の活躍を紹介することを目的としています。

本学が刊行した「明治丸史」に掲載されている「明治丸航行日誌概略」によると、日本近海を疾走する燈台巡廻船としての明治丸の活躍の姿が鮮烈に浮かび上がって参ります。海洋立国として船出をする明治期の日本を象徴するかのようです。

今回の展示は、江戸時代から日本近海に配置されていた燈明の錦絵、さらに、明治初期における燈台の錦絵や写真等を公開します。

燈台は、単に暗い海を明るくし船の航行を導いたばかりでなく、開国間もない明治の日本の進むべき路をも「輝らした」のです。今回の展示において、明治丸の活躍とともに、各所の燈台の姿を御覧下さり、遅れて世界に登場した近代日本が必死になって、諸外国に追いつく努力に思いを馳せていただければ幸いです。

最後になりましたが、本展の開催にあたり、ご協力をいただきました関係各位の皆様に心より御礼を申し上げます。

2013 年 7 月

東京海洋大学明治丸海事ミュージアム館長 松下 修

明治丸の優美さの陰にある「公のための努力」

平成 23 年 3 月 11 日発生した東日本大震災では、被災地に緊急支援物資が十分に行き渡らず、大都市の店頭からも食料品の在庫が消えた。まるで戦国時代の兵糧攻めを思い起こさせるような事態により、あらためて物資輸送が我々の生命や生活をつないでいることを知った。

物資輸送のための本格的な物流ネットワークは、江戸時代に河村瑞賢（1618～1699 年）が開発した東廻り航路（寛文 11 年、1671 年）と西廻り航路（寛文 12 年、1672 年）で始まる。この航路開発の目的は、江戸や大坂への年貢米や生活物資の輸送だった。

明治時代になって開国すると、国内輸送も海外貿易も活発になる。北海道では、日本で三番目の鉄道の幌内鉄道により小樽まで運ばれ石炭は、手宮港から船で積み出された。群馬県の富岡製糸工場から絹製品を運び出すために高崎線が建設され、山手線を経由して横浜港で船に積み替えられ輸出されていた。このように、殖産興業のために明治の時代においても、海運による物流ネットワークの整備は必須だった。

昔も今も物流ネットワークの構築には、施設と技術と制度の整備が不可欠である。たとえば、施設では安全な航路設定や港湾整備、技術では操船技術や水先案内、制度では税制や海難補償制度などは、時代を問わず物流ネットワークの構築に必要な基盤（インフラ）なのである。なかでも、交通信号がなければ道路交通事故が頻発するように、海上輸送にとっての燈台は、安全な航海と安定した物資輸送にとって極めて重要だった。

もしも燈台に明かりが灯されなければ、安全な航海もできず、ひいては食糧や生活物資の供給もままならなかったはずである。だからこそ燈台は、他の機械設備と同じように、設置した後の定期的な保守点検が重要だった。

明治天皇の御座船としての北海道東北巡幸や小笠原諸島への航海など、明治丸は華やかな場面で取り上げられがちである。しかし明治丸の活動の多くは、「海難を未然に防ぐために、人知れず巡回する」という使命のもとで、人々の生活と産業を支えることだった。

近年、派手なことや目立つことが注目されがちである。しかし日本には、宮大工が人知れず棟木に名を残すように、粋人が和服の裏地に凝るように、職人が丁寧な下ごしらえにより美味しい寿司を生み出すように、目立たぬように密やかに努力を重ねる伝統がある。

明治丸の優美さの陰にある「公のための地道な努力」を知れば知るほど、日本の伝統を象徴しているように思える。その分だけ、明治丸には畏敬の念を抱くとともに、愛おしさも感じてしまうのである。

展示目録

燈台巡廻船(海上保安庁発足とともに燈台補給船と名称改変)

- ・ テーボール号(明治 3(1870)年-明治 12(1879)年)・
明治丸(明治 8(1875)年-明治 29(1896)年)
- ・ 新發田丸(明治 29(1896)年-明治 37(1904)年)
- ・ 羅州丸(明治 37(1904)年-昭和 20(1945)年)
- ・ 第十八日正丸(昭和 20(1945)年-昭和 24(1949)年)
- ・ 宗谷 (昭和 25(1950)年-昭和 30(1955)年)
- ・ 若草(昭和 31(1956)年-昭和 52(1977)年)



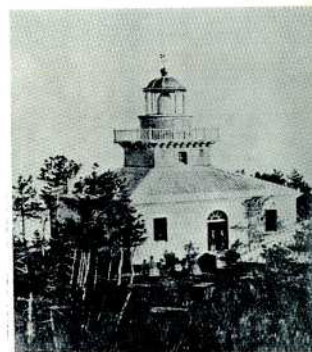
明治丸とテーボール号

資料

- ・ 日本沿海燈臺之圖 明治 15(1882)年
- ・ 工部省第三回年報 燈台 第三章 明治丸巡航日誌(複製) 明治 10(1877)年
(原本所蔵 国立公文書館)
- ・ 工部省第四回年報 燈台(複製) 明治 11(1878)年—明治 12(1879)年
(原本所蔵 国立公文書館)
- ・ 水路報道 第 9 号(複製) 明治 25(1892)年
(原本所蔵 国立公文書館)

燈台写真

- ・ 観音埼燈台(神奈川県)((明治 2(1869)年)
日本最初の洋式煉瓦造燈台、日本の燈台 50 選
- ・ 野島埼燈台(千葉県)((明治 2(1869)年) / 合田進撮影
(合田進氏蔵)
建設当初は煉瓦造燈台、日本の燈台 50 選
- ・ 燈船(本牧)(神奈川県)(明治 2(1869)年)
日本最初の燈船
- ・ 品川燈台(東京都)(明治 3(1870)年)
現存する日本最古の燈台、国の重要文化財
- ・ 城ヶ島燈台(神奈川県)(明治 3(1870)年)
建設当初は煉瓦造燈台、関東大震災後、鉄筋コンクリート造燈台となる
- ・ 檜野埼燈台(和歌山県)(明治 3(1870)年)
(霞会館蔵)
日本最初の石造燈台、日本最初の回転燈
- ・ 潮岬燈台(和歌山県)(明治 3(1870)年)
(霞会館蔵)
日本最初の洋式木造燈台



観音埼燈台(神奈川県)



燈船(本牧)

- ・^{みこもとしま}神子元島燈台(静岡県)(明治 4(1871)年)

石造燈台、世界燈台 100 選

- ・伊王島燈台(長崎県)(明治 4(1871)年)

(霞会館蔵)

日本最初の鉄造燈台

- ・佐多岬燈台(鹿児島県)(明治 4(1871)年)

建設当初は鉄造燈台、現在はコンクリート造燈台、日本の燈台 50 選

- ・^{つるぎさき}劔埼燈台(神奈川県)(明治 4(1871)年)

建設当初は石造燈台、関東大震災後、鉄筋コンクリート造燈台

- ・石廊埼燈台(静岡県)(明治 4(1871)年)

建設当初は木造燈台、現在は鉄筋コンクリート造燈台、日本の燈台 50 選

- ・江埼燈台(兵庫県)(明治 4(1871)年)

洋式石造燈台

- ・^{むつれしま}六連島燈台(山口県)(明治 4(1871)年)

(霞会館蔵)

石造燈台、燈台近くに明治天皇行幸の碑あり

- ・^{へさき}部埼燈台(福岡県)(明治 5(1872)年)

(霞会館蔵)

石造燈台、日本の燈台 50 選

- ・和田岬燈台(兵庫県)(明治 5(1872)年)

現存する日本最古の鉄造燈台、廃燈後須磨海浜公園に移設保存

- ・^{てんぼうざん}天保山燈台(大阪府)(明治 5(1872)年)

木造燈台

- ・^{あのりさき}安乗埼燈台(三重県)(明治 6(1873)年) / 合田進撮影

(合田進氏蔵)

建設当初は木造燈台、日本の燈台 50 選

- ・犬吠埼燈台(千葉県)(明治 7(1874)年)

煉瓦造燈台、世界燈台 100 選

- ・^{くらさき}鞍埼燈台(宮崎県)(明治 17(1884)年)

日本最初の無筋コンクリート造燈台

- ・姫埼燈台(新潟県)(明治 28(1895)年) / 合田進撮影

(合田進氏蔵)

日本で現役の鉄造燈台としては最古の燈台、日本の燈台 50 選、世界燈台 100 選

- ・^{みほのせき}美保関燈台(島根県)(明治 31(1898)年) / 合田進撮影

(合田進氏蔵)

石造燈台、日本の燈台 50 選、世界燈台 100 選



伊王島燈台(長崎県)



部埼燈台 (福岡県)



^{あのりさき}安乗埼燈台

- ・ ^{いずもひのみさき}出雲日御碕燈台(島根県)(明治 36(1903)年) / 合田進撮影
(合田進氏蔵)

日本一の燈塔の高さを誇る石造燈台、日本の燈台 50 選、世界燈台 100 選

- ・ 清水燈台(静岡県)(明治 45(1912)年)
日本最初の鉄筋コンクリート造燈台

燈台パネル(海上保安庁東京海上保安部蔵)

- ・ 波照間島燈台(沖縄県)
- ・ 西埼燈台(沖縄県)
- ・ 種子島燈台(鹿児島県)
- ・ ^{いずもひのみさき}出雲日御碕燈台(島根県)
- ・ ^{みこもとしま}神子元島燈台(静岡県)
- ・ 犬吠埼燈台(千葉県)
- ・ 姫埼燈台(新潟県)
- ・ 金華山燈台(宮城県)
- ・ 神威岬燈台(北海道)
- ・ 宗谷岬燈台(北海道)
- ・ 納沙布岬燈台(北海道)



絵葉書 壇ノ浦燈台(山口県)

絵葉書(燈台風景) (船の科学館蔵)

- ・ 地球岬燈台(北海道)・壇ノ浦燈台(山口県)・地藏島燈台(宮城県)等 40 枚

錦絵・引札・版画・色紙

- ・ 總州銚子港燈臺畧圖 歌川國輝(二代)画
- ・ 日本名勝図会 観音崎 小林清親画
- ・ テーボール號

(船の科学館蔵)

- ・ 東京名勝圖會 つくだじま

(船の科学館蔵)

- ・ 坂府新名所 天保山燈臺

(船の科学館蔵)

- ・ 名所江戸百景 はねたのわたし 瓣天の杜 歌川広重(三代)画

(船の科学館蔵)

- ・ 東京三十六景 品川沖 蒸気船 歌川広重(三代)画
- ・ 九段坂之燈台 伊藤晴雨色紙
- ・ 東京新画名所図解 九段坂 井上安治画



引札 テーボール號

燈器・模型

- ・LED 灯器 (海上保安庁東京海上保安部蔵)
- ・水の子島燈台模型 (海上保安庁海上保安試験研究センター蔵)
- ・明治丸模型

スライド写真 / 合田進撮影



總州銚子港燈臺畧圖 歌川國輝(二代)画

ご協力いただいた方々及び機関名(順不同、敬称略)

海上保安庁東京海上保安部

海上保安庁海上保安試験研究センター

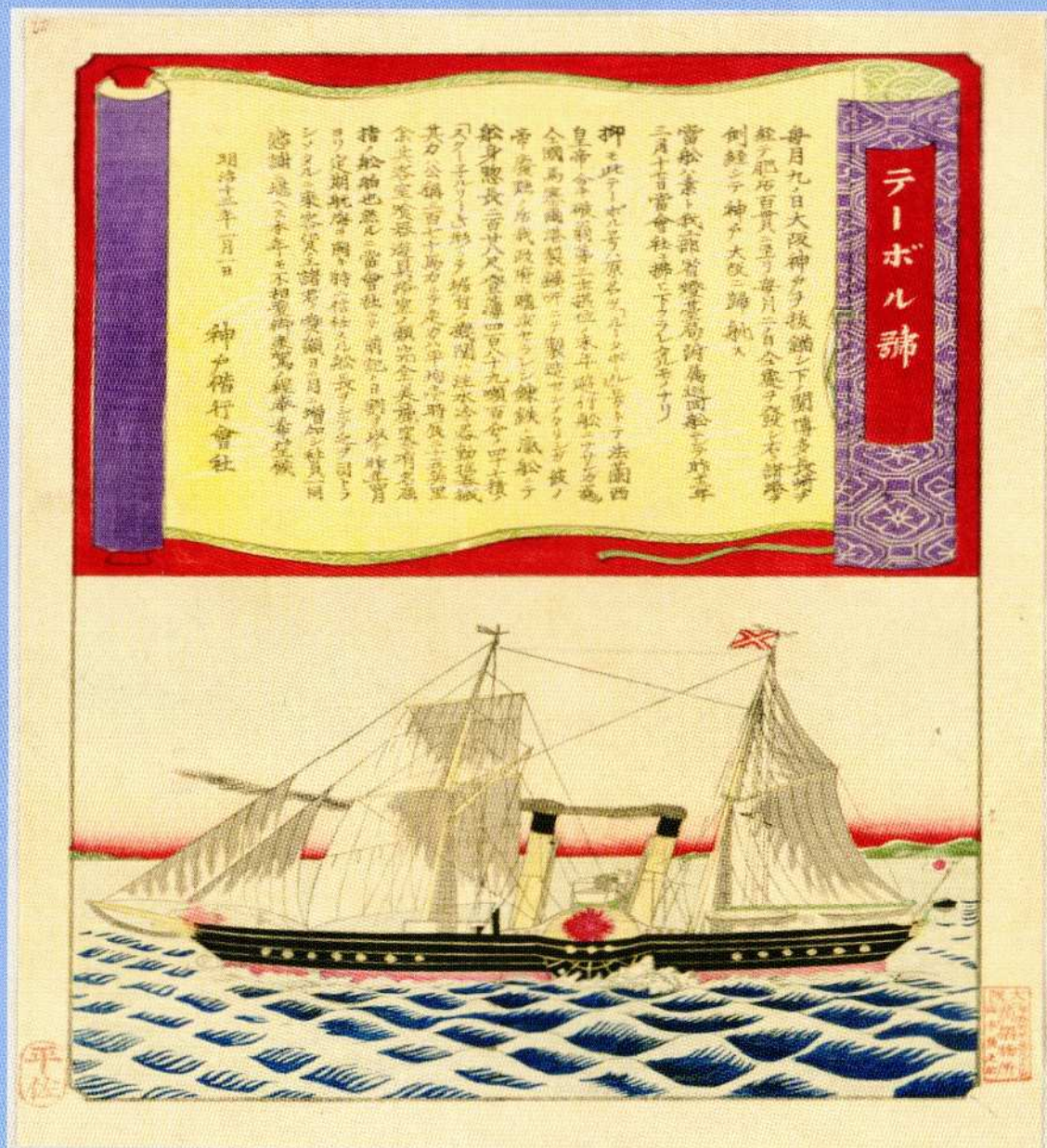
霞会館

国立公文書館

燈光会

船の科学館

合田進



引札 テーボール號 船の科学館蔵

明治を輝らした光
—燈台巡廻船明治丸の活躍—

発行日 平成 25 (2013) 年 7 月 1 日
編 集 東京海洋大学附属図書館
発 行 東京海洋大学明治丸海事ミュージアム
〒135-8533 東京都江東区越中島 2-1-6
T E L : 03-5245-7360
E-mail : meijimaru@o.kaiyodai.ac.jp